令和元年度　学力向上を図るための全体計画

大田区立開桜小学校

学校・地域の実態や願いなど
児童の実態
本校の教職員の願い
家庭・地域の実態
保護者の願い

学校の教育目標

○人の気持ちがわかり、行動できる子
○進んで学び、自分のよさを発揮できる子
○規則正しい生活をし、進んで体をきたえる子

教育関係法規など
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
教育委員会の教育目標
東京都教育ビジョン
おおた教育ビジョン

学校経営方針　（学力向上にかかわる内容）

「知・徳・体のバランスのとれた子供の育成」　→知（確かな学力の育成）
基礎・基本の定着と共に、思考力・判断力・表現力を育成し、子供たちに確かな学力を身に付けさせる。
・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、学ぶ意欲を高め、学習習慣を身に付けさせ、主体的に学習できる力を育成する。また、校内研究を授業力向上の場とし、研究を積み重ねていく。
・児童の思考プロセスを大切にした、主体的・対話的な学び（課題解決型授業）を実践していく。

指導の重点

各教科
○「開桜小学習スタンダード」（学習規律・用具・家庭学習）の指導を継続して行い、定着を図る。
○児童の学習意欲の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
○「大田区学習効果測定」などの結果や校内研究における実態調査等から児童の学力や学習状況を把握して授業改善推進プランを策定し、それに基づく授業改善を推進する。
○算数科における習熟度別少人数指導を全学年で実施し、個に応じた効果的な指導を行う。
○問題解決的な授業の実践によって学習の充実を図り、観察・実験、体験的な活動などを効果的に取り入れることで児童の興味・関心を高める工夫をする。
○書き方を指導し、書く活動を意図的に増やし、書く力の伸長を図る。

総合的な学習の時間
○内川、ものづくり、海苔つけ体験、町工場調べ等、地域に関わる学習活動の充実を図る。
○情報収集や自分の考えを表現する手段として、コンピュータ等ＩＣＴ機器の効果的な活用の在り方と情報モラルに関する指導を充実させる。
○調べて学んだことを異学年に伝え合う交流学習を設定し、学習意欲を高め、見通しをもって主体的に課題解決をしようとする態度を育てる。

特別活動
○学級活動を通して、児童の自主的実践的な態度や健全な生活態度の育成を図る。
○学校行事を通して、児童の集団への所属感や連帯感、自己肯定感等の育成を図る。
○縦割り班による朝のあいさつ運動や、縦割り班活動を年間７回設定し、異学年での交流を行うことで、他者への理解を深められるようにする。

道徳教育
○高い規範意識とともに、人を思いやり心や自他の生命・人権を尊重しようとする態度の育成に重点をおいた指導を実践する。
○道徳教育の要である道徳の時間を、他の教育活動との関連を図りながら意図的・計画的に行う。
○ねらいに応じた「考える道徳」「議論する道徳」に質的変換を図る。

外国語活動
○外国の言語に触れたり外国の人と交流したりする活動を通して、様々な国の言語や文化に対する理解を深めたり親しみをもったりできるようにする。
○外国語教育指導員と連携し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。

平成３０年度授業改善推進プランの評価

○「授業改善推進プランチェックシート」を活用し、改善策を意識しながら日々の授業を進めることができた。学力向上につながった手立てと、効果が薄かった手立てがあったため、さらに精選していく必要がある。
○タブレットPCを各学年とも積極的に活用したことが、学習意欲の高まりにつながった。また、授業で学んだことをさらに調べて、深める姿が見られ、「活用する力」を伸ばすことにつながった。
○基礎的・基本的な学習内容を確実に定着できるように授業改善をさらに焦点化し、日々の指導の中で意識して取り組めるようにしていく。

令和元年度大田区学習効果測定の分析

○昨年度課題が見られた、国語の「書くこと」については、４・５・６年で正答率の向上が見られた。また、５・６年の社会・理科については前年度よりも正答率が向上した。国語においては「書くこと」に重点を置いた校内研究、理科・社会はワークシートやICT機器を活用した復習を積極的に行ったことが、効果的だったと考えられる。
○算数では文章問題、国語では「言語についての知識・理解・技能」において課題が見られ、授業改善に取り組む必要がある。また、計画的に復習を行う必要がある。

授業改善に向けた視点

教育課程	指導内容・方法	評価	研究・研修	地域や家庭との連携
○ステップアップタイム（週２回）と補習（週１回、土曜年６回）を設定し、基礎・基本の定着を図る。 ○学力向上ウィーク（年３回）、漢検チャレンジウィーク（年２回）を設定し、復習に重点を置いた指導を行う。 ○朝読書（週１回）、開桜小読書週間（年３回）の設定、読書記録の改定と読書学習司書の活用により、読書活動を推進する。	○「開桜小学習スタンダード」を基に、学習に向かう構えを身に付けさせる。 ○東京ベーシックドリルや大田区漢字検定を活用し、学習内容の定着を図る。 ○デジタル教科書のコンテンツやフラッシュカードなど内容を工夫した復習を、授業時間内に定期的に行う。 ○書く活動とスピーチ活動の充実、言語環境の整備により、言語力を育成する。国語辞典を「マイ辞書」として積極的に活用させ、語彙を増やし、調べる習慣を身に付けさせる。	○学習のねらいを明確にし、確かな学力の定着に努め、指導と評価の一体化を図る。 ○毎月の授業改善推進プランチェックシートにより、実施状況を確認・検証し、授業改善に生かす。 ○学習効果測定の個人票を基に、児童が学習の定着状況を振り返り、学習計画を見直せるように学習カウンセリングを行う。 ○保護者アンケート、学校評価を授業改善の資料とする。	○「書く意欲・書く力を高める授業づくり」を研究主題とし、授業力の向上を図る。 ○年度末に、有効だった手立てを伝え合い、検討する研修会を設定し、継続性・発展性を図っていく。 ○OFF-JT（開桜未来塾）で教科指導や授業づくりに関する研修を定期的に行い、授業力を高める。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、東京都教育委員会の研修、指導教諭の授業公開、区内の研究発表、外部の研修に参加したりして、授業力を高める。	○「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着を図る。 ○児童の様子や学習内容についての保護者の理解を促進するため、授業参観と保護者会を同日に実施したり、学校 HP に学習の取組を掲載したりして連携の充実を図る。 ○開桜小スクールサポート（学校支援地域本部）により地域の教育力を組織化し、体験・交流などの学習を取り入れるなどし、教育活動をさらに充実させる。